

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ポコロコnino			
○保護者評価実施期間	2026年 4月 1日		～	2026年 4月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	2026年 4月 1日		～	2026年 4月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 26日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの個性、特性を生かしたサポート 得意を伸ばし、好きなことを活動に取り入れ、やる気につながる 子供の「楽しい！」を引き出した小集団活動を実施。参加する中での社会性、コミュニケーション能力の向上の機会を作る 	<p>音楽、実験、工作、造形、運動、ゲームなど、子供達の興味を引き出す活動を様々な用意しています。</p> <p>SSTを行うにあたり、構造的な実施というより、子供たちの興味のある分野をツールとして活用し、そこで生まれるコミュニケーションにより、社会性スキルの向上を図る関わりをしています。どの子にもきめ細かい支援が行き届くようにしています。</p>	<p>各ツールの充実性を図ります。</p> <p>内容を常にアップデートし、子供達の興味関心を引き出し、継続性を確保したいです。</p> <p>保護者様と一緒に良いサポート体制の構築を目指します。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 専門職員を配置し、各専門分野での視点からの支援を提供 個別と小集団の組み合わせで子供達をサポート 集団活動は、小集団を基本とし、職員の目が行き届く体制 職員全員が子供たちの支援に全力で向き合っている 職員間の関係性がとても良好 子供たちがのびのびと過ごせる 	<p>専門的見地からのアセスメント実施、保護者への助言等を行っています。</p> <p>個別療育では、一人ひとりの状況を考えた計画を立案しています。</p> <p>学習支援、認知機能トレーニング、SST 机上学習という形だけではなく、ゲームなども利用しながら、子供たちの楽しいを引き出した支援をしています。</p> <p>子供たちの意見に耳を傾け、しっかりと話を聴く姿勢を大切にしています。</p>	<p>集団療育において、必ずしも小集団が良いわけでもなく、10名 定員全員での活動も実施します。</p> <p>たくさん集まることでより刺激があり、楽しいこともあり、学び が深まることもあります。</p> <p>個別、小集団、集団、それぞれの良さを生かした支援内容を考案 していく必要があると思っています。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 各種心理検査の実施が可能 学校や他機関との連携を実施 	<p>WISCV、WAVES、STRAW-R、S-M社会生活能力検査等、アセス メントツールとして必要な検査を実施できる体制を整えておりま す。実施された検査所見を参考にした支援を実施しています。</p> <p>学校との連携をし、必要時には密に連絡を取り合います。また、 ケース会議等への出席は可能な限り出席しています。</p>	<p>職員研修の実施をさらに強化します。</p> <p>専門的な支援を事業所全体の強みとしていけるようにします。そ れには、職員のみならず保護者様との共通理解も大切だと思っ ていますので、日々の情報共有や面談、保護者会での意思確認、統 一した支援の方針等を確認していきたいと思っています。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 集合住宅の画一であること 	<ul style="list-style-type: none"> 物件探しの困難化 	<p>今ある場所で、できることを最大限実施し、環境を整えています。</p> <p>集合住宅であることにより、大声が出せない、騒がないなどがあり ますが、逆にそれを武器に、声の調整を意識することや周囲へ の迷惑とは何かを学び習得する機会としています。その他、協力 する心を育てています。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 業務量に対する人員不足 デジタル機器の導入により、慣れるまでの業務負担が増加 質の向上対業務量過多による職員の健康面の問題 職員の疲弊により、本来の子供たちとの時間に全力を出せなくなる懸念 	<ul style="list-style-type: none"> 有資格者採用の困難化 <p>児童指導員等の配置要件をクリアした上で、支援以外の書類作成、 保護者や学校、他機関連携、面談調整、予定作成、支援立案等の業 務を分担できる人材の確保の難しさがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援内容の充実と質の向上の裏側の制度対応に追われてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> 新規採用 職員教育
3	<p>子供たちの支援に真摯に向き合うことにより、自責の念で苦しむ 職員が出る場合がある。</p>	<p>子供たちの特性を理解するための知識不足や経験値により、生じる と思われる。通常ですと起こり得ない事態ということが発生する ことは頻繁でもあり、想定外のことにより、職員が傷つくことが予 想されます。原因をサポートしている職員にのみに当てることはせ ず、その現象の分析をする必要があると思っています。それらを皆 で協力して実践していけるようにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修を充実させる 職員の話をよく聴く 一緒に支援の方法、内容を確認し実践する <p>職員一人ひとりが責任を持ちつつも、1人で支援を実施するという 気持ちではなく、チームで子供たち、保護者様に寄り添う姿勢で 業務にあたるようにすることが大切だと思っています。</p>